令和４年度

地域日本語教育
アドバイザー派遣事業

＜事業概要・報告＞

（公財）岐阜県国際交流センター

地域日本語教室アドバイザー派遣とは？

現状・課題

・岐阜県内には４５の日本語教室があり、
各教室の実情に応じて教室運営や教え方等に関する課題がある。
・教室からは「解決に向けてどうしたらよいか分からない…」という声がある。

取組み

・地域日本語教育アドバイザーを各日本語教室に派遣

⇒各々に応じた解決策を提案及び共に検討し、課題解決を導くことで日本語教室の活性化を図り、外国人の日本語学習環境の充実につなげる。

各教室の課題とその要因を「見える化」⇒「改善策」を講じる

事業概要

対象

岐阜県内の地域日本語教室または立ち上げを検討している教室
（支援対象の年齢は問わない）

期間

応募：令和４年５月１６日～１１月３０日
派遣：令和４年６月　１日～１２月１８日

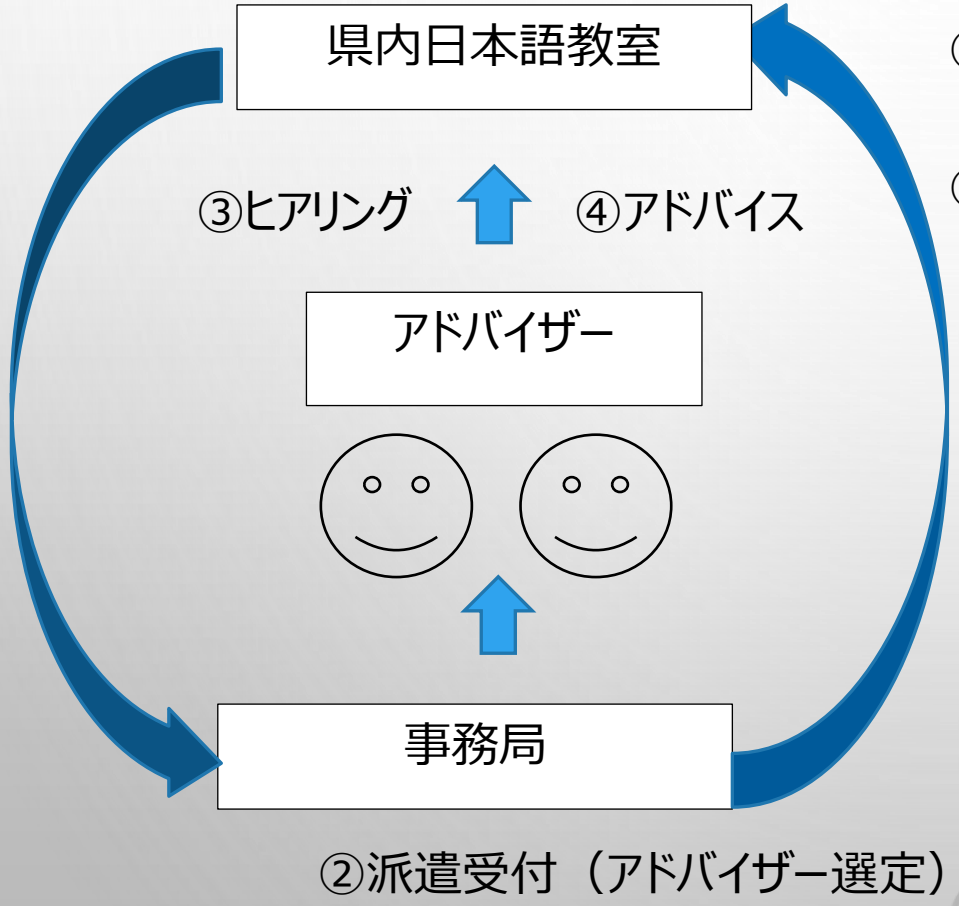
内容

岐阜県内の地域日本語教室が抱える悩みや課題に
アドバイザーが寄り添い、教室関係者とともに改善方法を検討し、
アドバイスを行う（６団体×２時間×４回派遣を目安）。

（活動面）指導方法、教材選定、シラバス作成等
（運営面）人材確保、ニーズ把握、役割分担、
教室内での課題共有、広報等

新型コロナ感染拡大防止の観点から、オンラインによるアドバイスも対応

アドバイザー派遣の流れ



①日本語教室が派遣依頼書を提出
②事務局が依頼書を受理、派遣受付。
③アドバイザーが日本語教室にヒアリング。
（現状や課題、希望を伺いアドバイス方針を決定）
④アドバイザーによるアドバイス
（１教室あたり３回の派遣を目安に実施）

アドバイザー

・岐阜県地域日本語教育コーディネーター
・岐阜県モデル日本語教室日本語指導者
・文化庁地域日本語教育コーディネーター研修の修了者
・岐阜県・愛知県等にて日本語教育・支援の経験が深い方

【登録者】　１５名

アドバイザー派遣実績（令和４年度）

【派遣先】 **5** 団体【アドバイザー】 **8** 名 【派遣回数】 **21**回

派遣先	派遣数	アドバイス内容
教室１	４回	日本語指導方法（主に子ども）、教室運営、資金確保、ネットワーク作り
教室２	２回	０レベルの学習者の対応、学習支援者の確保、教室の課題や目標を検討するワークショップ
教室３	６回	市町国際交流協会として教室の役割・目標の明確化、市内ボランティア教室の視察

アドバイザー派遣実績（令和４年度）

派遣先	派遣数	内容
教室４	５回	新規日本語教室の立ち上げ、対話交流型クラスの説明、来年度以降の教室活動・方針
教室５	４回	言語習得の考え方、文法編重の現場を変える時の選択肢、教材（いろどり）の紹介

相談内容の具体例は、次頁以降をご覧ください。

相談内容の例

【運営面】

- **１人で活動しているため方針等に迷いがある、また負担が大きい。**
  （学習以外でも生活に関すること等の相談もある）

・付近にある機関（国際交流協会等）の研修やイベントに参加して、市や地域の方と交流を持ってみてはいかがか。他教室の支援者と関われる連絡会議などもある。

・学習者自身で生活情報を取得できるよう、地域とのつながりを促してはいかがか。（例として、他教室で行われている活動の紹介を行った。）

・子どもへの支援を行っていたため、学習者の母国と日本の制度の違い等を紹介した。

- **費用面での負担を感じる（教室を借りる費用も負担に感じる）。**

・市町村や国際交流協会、岐阜県国際交流センター等の補助制度を活用してみては。

・公民館などの公営施設では、活動によって会場費の免除施策等がある。

・他教室がどのような場所で活動されているかを紹介。

相談内容の例

【運営面】

- **学習支援者の確保・定着**

・支援者の募集は、市の広報に年１回掲載のみとなっていたため、チラシを作成してみてはいかがか。

・チラシの配布や設置は事務局である市に協力してもらい、認知度を高めてみては。

・県国際交流センターのHP等でも周知が可能。

- **教室の理念・目標や運営について支援者同士で話し合うことがあまりない。**

・アドバイザー主導のもと５０分程のワークショップを行った（模造紙と付箋を使ったブレインストーミング）。

・話し合いが進むにつれ、お互いに相手の文化を学んでいる、気軽に参加できる場としたい、教室運営には支援者同士の協力が必要である等の気づきがあった。

相談内容の例

【運営面】

- **学習者が急に来たり休んだりする。そのために進度がずれる。**
  - ・毎回出席してもらうのは現実的には難しいため、１回完結の内容にしてみては。（例として「私らしく暮らすための日本語ワークブック」を紹介）
  - ・現在通年で開いている教室を、期に分けて実施してみてはいかがか。実施内容のサイクルを決めることで、永久的な進度のズレを解消することができる。
- **今後の教室展開の軸となる方針を決めたい。**
  - ・市町国際交流協会の日本語教室なので、市内ボランティア教室の視察を行い、棲み分けを考慮して検討してはいかがか。
  - ・現在の教室の内容や時間設定は、参加できる人や興味を持つ人が限定されたものになっているため、期待する参加者像と現実のずれができているかもしれない。
  - ・各ボランティア教室を視察後、教室担当者を対象に、教室の具体的な目標や理念を明確化するワークショップを実施した。

相談内容の例

【活動面】

- **教材を使わずコミュニケーションを取る中で日本語習得を目指したい。**
  - ・教室内で学習者の発話を増やす工夫について説明。
  - ・講師から学習者への指示、学習者から講師への質問はすべて日本語にしてみては。（日本語⇒英語の置き換えでなく、日本語⇒日本語の言い換え）
  - ・分からない時はすぐ説明するのではなく、学習者同士で説明し合い、講師は補足・確認してはどうか。

- **学習者の年齢や日本語レベルが違い、決まった教材では学習がしにくい。**
  - ・支援者１人に対してレベルの異なる複数の学習者を同時に対応しているので、自習時間を作り、時間を分けて個別もしくは数名ずつ対応をしてみては。
  - ・どの内容を学習したか、どの言葉を学習する必要があるか把握するためのテキストを紹介した。

相談内容の例

【活動面】

- **自分の学生時代の英語学習の経験のみで教えている。色々な教え方があると聞くが、やり方が分からない。**
  - ・まずは他の市町村の教室（教室型や対話型）等に見学し、そこから自身の教室に合ったやり方を模索してみてはいかがか。
  - ・アドバイザーから県モデル日本語教室や他教室を見学できるよう紹介した。

- **ほぼ０レベルの学習者とのコミュニケーションが難しい。**

  （他の学習者がフォローにまわっているので学習ができていないのではという不安もある）
  - ・学習者が他の学習者を支援することで、そこから生まれる学びもあるため全く学習できていないわけではない。
  - ・教室に支給されていたポケトークの使い方や、翻訳が可能なグーグルレンズ（アプリ）のダウンロード・活用方法などを紹介した。

相談内容の例

【活動面】

- **日本語教材の「いろどり」を使用することを検討している。いろどりの特色や活用方法を教えてほしい。**

・根本的な学習観をある程度理解しないと「いろどり」を使って文法編重の学習方法を行ってしまう可能性があるため、言語習得について論理的な部分から説明を行い、最終的に実際のいろどりの使い方を説明した。

※生活のための日本語やコミュニケーションのための学習支援であれば、日本の英語教育のような文法積み上げ式の学習は非効率な部分がある。

・根本的には、「相手に伝わる言葉を使って、お互いのことを知り合う時間を持つ」ことが必要で、これができていれば教科書等使わない方法も可能である旨も伝えた。

相談内容の例

【新規日本語教室の立ち上げ】

- **今年度新しく日本語教室を実施することになったが、どうすればよいのか分からない。**

・地域の在住外国人数、国籍、在留資格、ニーズ等の事前リサーチができていると、よりよい教室が企画できる。

・多言語でチラシを作成し、配布の際に外国人が多い施設や会社も訪問するとよい。

・団体が得意とする交流活動を主軸に、地域での生活に必要なゴミ出しや防災等の行政情報を取り入れた「対話交流型」の教室を提案。

・支援者の方々で運営できるような体制づくりが必要なので、教室が始まる前に支援者の方達を入れて話し合いの場をもってみてはいかがか。

・対話交流型クラスの進め方、資料のご提案、進行のサポートやアドバイスを実施。

・来年度以降の団体活動や日本語教室の運営の検討。

依頼先からの主な意見

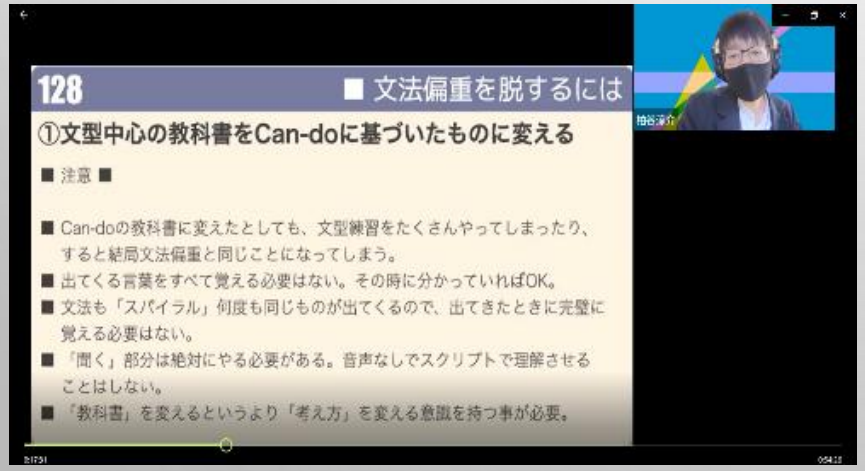
【良かった点】

- ワークショップを実施することで、教室の目標や方向性を明確化できた。また図表化することで問題点等見えていなかったものに気づく事ができた。
- 地域日本語教室としてどうあるべきか、言語化し職員間で考えを共有することができた。
- アドバイザーの先生方を起点として、他団体と情報交換ができた。
- 昨年度から引き続き一緒に教室の課題を考えてくださり大変助かった。
- 私たちが自発的にどう動いていくべきか、様々な気づきがあるようアドバイスをしてくださった。
- 新規日本語教室を開設するにあたり、何もないところから組み立てて開催しなくてはならず、アドバイザー派遣を利用した。高度な知識が必要という固定観念をひっくり返していただいたところから、迅速に進められ開催に関しても成功できた。
- 言語習得の仕組みや教材の活用方法など、分かりやすく説明してくれた。
- 状況に応じて派遣方法も、対面・オンラインと柔軟に対応していただけた。

【改善点】

- メールでの相談もアドバイザー業務として可能としてほしい（遠方の為）。

アドバイザー派遣の様子

【対面でのアドバイス】

【オンラインでのアドバイス】